

子と親、先生にも役立つ

「教科書と一緒に読む津軽の歴史」

河西 英通

郷土の一冊

教科書、好きですか？
「教科書的一とくれば面白くないことの名詞。お子さんの教科書を手にして、

「おっ、最近カラー印刷かー」「へえー、こんなことまで書いてるの！」と驚かれる方もいらっしゃるで

しょうが、とかく教科書は人気のない。歴史の教科書を開いて、あれにもこれにもメーカーしてしまい、な

たことも変わりありません。そして、実は、教える先生方も「教科書を教える」のか

で頭が痛いのか、そこに登場したのが本書です。

何と云って「教科書と一緒に読む」

毎日通学路、生まれ育った街、まだ見ぬ「津軽」の歴史を知りたい。そんな気持ちに、この本の「津軽から始まる『日本列島の歴史

史』？」から「列車に乗った『金の卵』たち」まで全19章が応えています。

まず教科書ではどう書かれていたのかを紹介され、次にその時代の津軽はどうだったのか最新の研究成果に沿った本論が続き、最後に関連施設の情報や参考文献があげられています。

お国自慢にならず、広く

世界のなかで津軽をとらえています。たとえば、律令

時代から武士の時代を「防衛性集落の時代」と位置づけ、

同時期の琉球・奄美諸島の城塞「グスク」時代と

対応させて、日本列島の南北で中央政権とは別の歴史

発展の可能性があったと述べています。広域への眼差しは各章に見られますが、

「蝦夷錦の来た道」では世界性や広域性の陰にさまざまな政治的思惑がうごめいていたことを解き明かしています。

戦争や軍事に翻弄された近代の章では、「禁じられた避難」「高度経済成長期

・津軽からの『問い』」などで平和への強い思いが語られて

います。

昨年春に完結した「青森県史」の成果がふんだんに

反映されている点も魅力です。自治体史がおいしく調理され、満腹感があります。

受験にはネエ、との心配は(無用。地域の歴史が楽

しめて、先生の授業の手助けにもなり、受験にも役立つ

こと請け合い。今までの出版会刊、1700円・税別

※小瑤史朗、篠塚明彦編著「教科書と一緒に読む

津軽の歴史」は弘前大学出版会刊、1700円・税別

津軽の歴史

教科書と一緒に読む



小島史朗 監修
篠塚明彦 編著

教科書と一緒に読む

※この記事は東奥日報社の提供です。

【 問合せ先 】 弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。